chapter-21

小・中学校の関わり

学校教職員の熱き指導から

2013.2.13吉祥院小学校３年総合学習（六斎授業）の様子

1 指導の役割（学校の関わり）

吉祥院子ども六斎会は、1992年、小学生を対象にした地域学習に始まります。この地域学習は、吉祥院学習施設の活動の一環で取り組まれたすそ野学習からで、その実施と指導においては、吉祥院学習施設指導主事（教職員）が中心的な役割を果たしています。この取り組みで子どもたちは、吉祥院のまちや六斎に対する興味・関心が徐々に高まり始め、この興味・関心を継続するため子ども六斎という形にし、獅子頭・衣装・太鼓鉦などを作り、最終的には、六斎を実際に演じることを目標に取り組まれました。

当初、練習で実際に使われる六斎の諸道具（太鼓や獅子頭など）の使用は許されず、子どもたちが作った太鼓や獅子を使用し、ビデオを見ながら見よう見まねで、足の運び方や獅子の頭の振り方を覚え、囃子（音楽）は保存会の演奏を録音したテープを用いて、子どもたち自ら練習に取り組み、その練習成果の発表の場として、京都市永松教育センターですそ野学習全市交流会（1995年3月）において、大勢の人たちの前で堂々と六斎を演じ、大きな拍手が巻き起こるほど技術も上達していきました。1993年に吉祥院地域の事業（敬老の集い）で初めて大勢の前で披露することになりました。その後も、児童館・吉祥院デイサービスセンターの竣工式の記念式典で披露しました。

このように着実な実績を積み重ねる子どもたちや教職員の活動に対し、六斎保存会側と子ども六斎会側が歩み寄り、保存会が子どもたちを指導に当たることとなりました。

子どもたちと学校教職員の取り組みが保存会や地域を立ち上がらせたと言っても過言ではありません。

保存会の指導が始まったことにより、これまで、ビデオを用いた見よう見まねの振り付けや手作りの道具を用いた練習から、実際に保存会が使用されている貴重な道具を使い、保存会が小学生たちに技術を伝承するという練習形態になりました。このような経緯から1995年3月、吉祥院子ども六斎会として正式に結成し、吉祥院天満宮大祭における六斎奉納に小学生が参加できるようになりました。

小学生の参加者の中には、当然のことながら女の子も含まれています。それまでは男性のみが練習や上演への参加を許されていましたが、習慣よりも保存会の発展を優先させ、保存会の意向のもと、女性の参加も認めるられることとなりました。

その後、子ども六斎会もさらに活動が活発化し、吉祥院地域保護者懇話会の結成で保護者同士の横のつながりと活動をサポートする取り組みが行われ、小・中学校の教職員も子ども六斎会の指導を補助として、毎回数名が練習会に参加し、指導に当たっていただきました。低学年の基本的な指導方法や教え方に関しては、教職員の方が慣れているということもあって、練習指導のサポート役として協力していただきました。

吉祥院六斎念仏踊りとまちづくり活動　ー抜粋ー

It has been designated an Important Intangible Folk Cultural Property.
Kissyoin Rokusai Nenbutsu Odori.

2 吉祥院六斎念仏踊りの歴史

1. 六斎の起源と歴史

平安時代空也上人がはじめたされる踊躍念仏が起こりとされており、どのような歴史を経て、現在のような念仏になったのか正確に裏付ける資料は存在しません。

仏教では、毎月8日、14日、15日、23日、29日、30日を六斎日とされ、この日は悪鬼が出て来て、人々に災いをもたらすとされていました。この日に鉦や笛、太鼓を打って躍りながら、念仏を唱えることから、六斎念仏躍りと称されるようになりました。

江戸中期、六斎念仏は変貌し、念仏踊りを主とする念仏六斎と、能や狂言、歌舞伎の演技を取り入れ、娯楽性のある芸能六斎の二系統に分かれ、伝承されてきました。

2. 京都の六斎念仏踊り

六斎念仏踊りは、京都市内に15箇所で伝承されており、それぞれの独自の特色を持っています。共通していえるこは、以下の2つがあります。

（1）千年以上続く、伝承の誇り
（2）厳しい稽古が生み出した民衆自身の芸能の継承

3. 吉祥院の六斎念仏踊りのはじまり

吉祥院の地に六斎念仏踊りが伝わったのは、平安時代後期、吉祥院天満宮の祭礼に獅子舞を奉納したことがはじまりとされる説と、山崎の合戦で明智光秀勢の残党が吉祥院の地で生き絶えたのを村人が弔ったのが起こりとされています。

4. 吉祥院六斎念仏保存会の保存曲

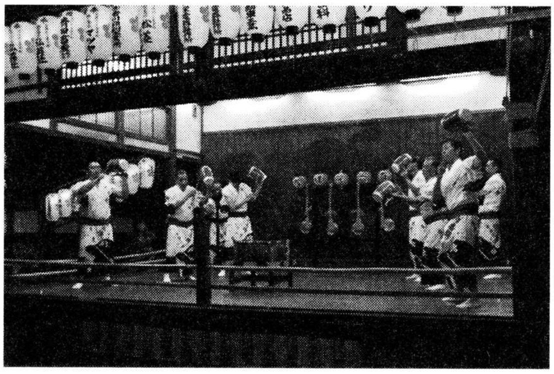
約千年前の京のまちに疫病が流行して多くの死者が出たとき、人々は不安に陥れ、そこで空也上人が、托鉢に用いる鉢を叩いて、洛中の街々で南無阿弥陀仏を唱えて廻り、人々の不安を取り除いたのが六斎のはじまり伝わっています。

発願：六斎念仏のはじまりを告げる演目。
つつて：小太鼓を上げ打ち、下げ打ちに分かれた緩急をつけて叩く。
お月さん：小太鼓を緩急をつけて叩く。
朝野：中央に大太鼓が叩き、左右に小太鼓が叩く。
四つ太鼓：子どもから大人までテンポを早めながら叩く。六つ太鼓もある。
安達ヶ原：見てはいけないと言われれば、見てみたい思う人の心理の物語。
大文字：中央で大太鼓が叩き、まわりを中太鼓が右回りに芸打ちをする。
岩見重太郎：野のヒヒが現れ、剣豪の岩見重太郎が退治する。
祇園囃：祇園祭りの月鉾の囃子を取り入れたもので中太鼓を打ちながら踊る。
獅子舞：2つの獅子の派手な演技。土蜘蛛が現れ、獅子との闘いが始まる。

5．まちづくり活動との関連

吉祥院六斎念仏踊りが奉納される吉祥院天満宮では、４月の春期大祭と８月の夏期大祭の年２回が開かれます。吉祥院地域には、多くの観光資源となる場所がありますが、地域の良さについては、ほとんど認知されていないのが現状です。

吉祥院小学校３年生の総合学習の一貫として、子どもたちに人権・福祉・防犯の視点と関連させながら、吉祥院のまちの歴史や古くから伝わる伝統文化、公共施設、まちの人について見つけ、住んでいるまちを知り、誇りを持ことができるような総合的な学習が取り組まれています。



6．吉祥院六斎は地域の観光資源になるか

アラン・フォーバス（戦後最大のツーリズム・プロジューサー）は、観光客の集客戦略として、以下の6つを上げています。

① 歴史（ヒストリー）
② 夢や物語（フィクション）
③ 音楽と食（リズム&テイスト）
④ 女性とギャンブル（ガール&ギャンブル）
⑤ 景色と気候（サイトシーング）
⑥ 商品（ショッピング）

アラン・フォーバスは、「この６つすべてを網羅することはない。この内３つを満たせば観光客は来る」と言っています。これを吉祥院六斎念仏踊りと吉祥院天満宮に当てはめると①、②、⑥が当てはまります。

吉祥院小学校では、ここを出口の表現活動として、総合的な学習に取り入れられており、学校の取り組みとNPO法人ふれあい吉祥院ネットワークのまちづくり活動と連携し、吉祥院六斎を観光資源の視点で捉え、伝統文化の継承に向けた取り組みが考えられています。

資料提供（京都市社会科教育研究会用提案資料）
京都市立吉祥院小学校３年担任／佃深生教諭 Mio Tsukuda